

2011～2022年国内誌における医学文献生産動向

児玉 閲

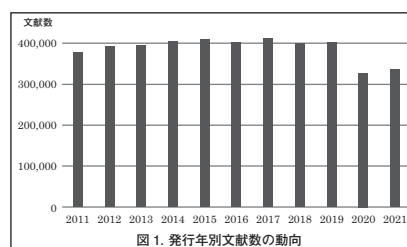
大妻女子大学 教職総合支援センター

1. はじめに

医学中央雑誌刊行会が公開している医中誌 Web の収録データ件数をみると、文献数は近年微減傾向にあることが見て取れる。医中誌 Web は国内誌掲載医学文献の収集について日本を代表するデータベースであることから、微減傾向は国内で生産される医学文献数の動きを示唆しているとも考えられる。そこで本調査では文献数と雑誌数をもとに、国内で発行される医学文献の生産動向を明らかにすることを試みる。

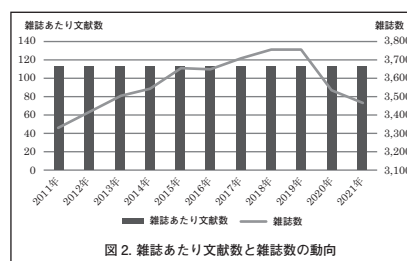
2. 発行年別動向

図1は2011～2023年3月1日に医中誌 Web に収録された4,694,784件を発行年別に集計したものである。2012～2019年は40万件前後で推移しており、文献の生産が頭打ちにあるように見える。2020年以降は大きく減少したのは、コロナの影響と考えられる。なお2022年発行文献の収録は調査時点では途中であって文献数が少ないため、図1～3から外した。



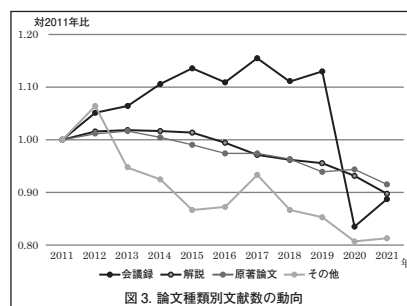
3. 雑誌あたり文献数と雑誌数の動向

図2は2011～2021年における雑誌あたり文献数と雑誌数の動向である。2019年までは雑誌あたり文献数は微減しているが雑誌は増えており、これにより年間40万件前後の文献数が維持されていたことがわかる。2020年以降は、雑誌あたり文献数も雑誌数も減少していた。



4. 論文種類別文献数動向

図3は2011～2021年における論文種類別文献数の動向を対2011年比で示したものである。2019年まで「会議録」は増加、「解説」「原著論文」は微減していた。つまり多くの論文種類で文献数は減ったが、「会議録」が増えることで年間40万件前後の文献数が維持されていたことがわかる。2020年以降はすべての論文種類が減少に転じた。



上記で示した「雑誌あたり文献数」「雑誌数」「論文種類別文献数」の動向に影響を及ぼした雑誌については現在調査を進めている。大会当日の発表で明らかにしたい。